

【荻野小学校】説明会における質問・意見等の概要

1 参加人数

日にち	会場	時間	参加人数
令和4年10月29日（土）	荻野小学校体育館	10時～	34人
		14時～	20人
		17時～	4人
		合計	58人

2 意見提出用紙による意見等提出件数

提出件数	4件
------	----

3 質問・意見の概要

○…質問 ●…意見・要望 △…説明会后、意見提出用紙等で提出された質問等

→…質問に対する回答

※同趣旨の質問や意見については、とりまとめて記載しています。

※「質問」については、市の回答を併せて記載しています。「意見・要望」及び「説明会后、意見提出用紙等で提出された質問等」については、今後の取組の参考とさせていただき、市の回答は記載していません。

【質問】

（取組の考え方・進め方・スケジュール）

○ 今はまだ何も決まっていないということだったが、仮に3校が1校となった場合、どの小学校が残る見込みなのか想定はしていないのか。

→ 統廃合という方策を実施するかどうかについても、まだ何も決まっていない状況です。仮に統廃合を実施する場合における統合先については、各学校それぞれにメリット・デメリットがあると思います。それらを整理した上で、子どもたちや地域の皆様にとってどこが一番望ましいのか検討していきたいと考えております。

○ 説明資料11ページに記載のある附属機関とは何か。また、本方針案についてのパブリックコメントについて意見が58件あったとあるが、この58件の意見を提出した人の年齢層の内訳を教えてください。

→ 説明資料11ページにあるとおり、公募の市民の方、関係団体の代表、学識経験者、小・中学校校長の方で組織した審議会において、審議いただきま

した。この審議会を、市では附属機関と呼んでおります。また、58件の御意見について、意見提出者の年齢が分かる資料については、今手持ちになく、お答えできませんが、保護者の方、また、保護者以外の方からも幅広く御意見をいただいております。御意見の中身としては、大きな取組になることから、地域の方や、保護者の方のお声をきちんと伺いながら、丁寧に進めてほしいという御意見が非常に多かったと記憶しております。

- 仮に統廃合する場合、どの学校に行くか選択する余地はあるのか。
→ その点につきましては実際に統廃合を進める方向性が決まったときに検討していきたいと考えています。現時点ではそこまで具体的な検討は進んでおりません。
- 玉川小学校の小規模特認校制度の結果と課題について教えてほしい。
→ 玉川小学校で小規模特認校制度を始めてから今年で7年目になります。一昨年取ったアンケートでは、制度を活用された方の多くが満足されているという回答をいただいております。その理由としては、「小規模な学校で先生の目がよく届く」「自然豊かな環境で学べるのが良い」などの御意見をいただいております。また、利用の状況については、年により差異はありますが、平均に直すと、年5～6人程度という状況でございます。

(通学関係)

- 通学路の安全性について調査しているとのことだが、荻野地区の通学路の安全性について教えていただきたい。また、それに伴ってスクールバスも可能性があるのか、教えていただきたい。
→ 安全性については、今年度、市の取組の中で、児童のランドセルなどにウェアラブルカメラをつけて通学路の安全性を確認するというところを行っています。教育委員会としては児童・生徒の通学路の安全が一番大切なものになりますので、仮に統廃合を検討させていただく場合については、教育委員会だけではなく、市の関係部署や警察とともに、安全対策をもう一度見直す必要があると考えています。スクールバス等の通学負担軽減策につきましても、荻野地区は南北で大きく広がっている地域であるため、仮にどこか1校に統廃合するような場合については、先ほどお示しした通学距離の上限を上回ってしまうと考えております。その場合は基本的に通学負担の軽減策を講じるということが前提となります。荻野地区は、公共交通バスが国道412号線を南北に運行していますので、そうしたものを活用するというのが一つの方法として考えられます。ただ、小学校低学年だと公共交通バスも使えるか

どうかという話もあるかと思いますので、併せてスクールバスといった方法も含めて検討する必要があるものと認識しております。

○ 1学年で1学級はすごく少ないので、統合で人数が増えることは賛成だが、スクールバスを導入する場合、費用負担はどうなるのか。他自治体の事例も含め教えてほしい。

→ 保護者の方に負担していただくかどうかについては自治体ごとによって異なるような現状でございます。これについて、本市としては今の段階で負担割合についてお話しできるものではありませんが、今後検討を進めていき、方策を考えていく中で、スクールバスの導入が必要だという考え方になった場合について、負担の考え方をお示しした上で、皆様に、そういった方策でよろしいか御判断をいただきたいと考えています。

○ 3校が1校に統合となった場合、公共交通バスの使用も考えられると思うが、現状で中学生が公共交通バスを利用しているのを結構見受けるが、公共交通バスの費用は個人負担なのか。それとも何か補助があるのか。また、その制度をそのまま小学生も使うことになるのか。

→ この地域で言うと、上荻野小学校の通学区域の一部の生徒たちが、荻野中学校に通学するときに、バスを使用しているというのは把握しておりますが、今のところ市でその交通費を負担することはしておりません。ただ、この取組を進めるに当たりましては、費用負担の在り方も含めて検討していく必要があるものと考えています。

(その他)

○ 将来的には1学年1クラスになるということだが、1クラスは大体何人ぐらいになる見込みなのか。

→ 推計では令和12年度には、荻野小学校、鳶尾小学校、上荻野小学校ともに1学年1学級となる見込みです。荻野小学校では令和12年度にだいたい130人程度になる見込みですので、1学年当たり22人程度になる見込みです。

【意見】

(取組の考え方・進め方・スケジュール)

● 子どもたちの人数が少なくなって、学校の適正規模を検討しなくてはならないのは十分理解できる。今、孫たちが荻野小学校に通っているが、4年生までは1クラスしかなく、学年が一つ上がったときのクラス替えができな

い。新しいクラスになじむとか、友達をどうやって作るかとかは大変なことかもしれないが、それらは成長する段階の、一つのステップだと思う。また、通学について検討する際には、1年生を中心に、単純に距離と時間だけではなく様々な要素を含めて考えてもらいたい。

- 登下校の見守り運動を担当しているが、とにかく子どもが少ない。見守りの対象は1年生と2年生だが、運動を開始して10分以内にはみんな帰ってしまう。荻野中学校の交差点でやっているが、そのぐらい少ない。だから適正規模の取組は必要なものだと思う。スクールバスについての意見もあったが、保護者のことも考え負担軽減を検討してほしい。

- 統廃合を進めるのであれば、子どもたちの意見も考慮していただきたい。

- 荻野地区で、小学校数が減るのは仕方がなく、人数が減ってくれば、維持費も掛かってきて、統合は避けられないかなと率直に思う。そんな中で、荻野地区は環境的には恵まれている。荻野小学校を中心と考えれば、荻野中学校がすぐ隣にあるので、例えば小中一貫の教育という利用の仕方もあるし、施設の維持管理面で考えると、荻野運動公園という市の施設があり、そこに室内プールもある。この地域で四つの学校でプールを維持し続ける費用を考えると、環境の良い運動公園を活用したほうが良い。1点、気になるのは荻野小学校を中心と考えたとき、平山坂の方まで行くと4kmくらいあるため、上荻野小学校の子どもたちはどのように通学するのか。特に小学校の低学年の子どもたちにはスクールバスが必要になるかと思う。スクールバスも公共交通バスを使うのか、市で運用するのかということも予算も含め考える必要があるかと思うが、子どもたちの体の負担や、保護者の財政的負担が少なくなるような形にしてもらいたい。

(教育環境)

- 統廃合や通学区域の変更等についても考えるべきだとは思いますが、小規模校を残しつつも、各学校で特色を持たせ、その特色に応じて、行きたい学校を選択できるようにするなど、制度そのものを見直すことで、教育環境を向上させていくことができるのではないかと。

【意見提出用紙による意見等】

(取組の考え方・進め方・スケジュール)

△ 荻野小学校が廃校になり、鳶尾小学校か上荻野小学校に統合されてしまう

と、子どもより家を早く出て出勤しなければならないこともあり、遠い距離を行かせるのは不安。近くの荻野小学校ならまだ安心。また、上荻野小学校は奥まっている場所にあり、通学に不安がある。

△ 今回の説明を聞いて、3校を1校にするのが規模的には良いと思う。中間にある荻野小学校が良いのではないかと感じた。スクールバスも良いと思った。

△ 荻野中学区の話で申し上げれば、位置的・歴史的に考えて荻野小学校1校に統合するのが適当であると思われる。通学距離の延長に伴い、スクールバス導入が適当と思われる。地域コミュニティの衰退を心配する声も聞かれるが、教育委員会だけが責任を負う話ではなく、市全体として検討すべき課題であると捉える。適正規模・適正配置の議題の次の課題として挙げるべき。

△ 適正規模・適正配置は、何のため、誰のために行うのか。住民・子供はどこに住んでいても、行政の施策を同等に受ける権利がある。

欧米並みに1学級20人前後、120～150人規模の小学校を沢山残し、周辺に住民が移り住める集落づくりを進め、中学校区単位の総合的なコミュニティや自治会の在り方も考えてほしい。

現在の児童・生徒数をピーク時と比較するのはナンセンスである。

空き教室や校庭などを、地域コミュニティとしての活用できる取組をしてほしい（市民の財産を売却してはならない）。

教員の多忙化は正規教員を増やし、多様な人材を導入する方法を国に要請し、解消してほしい。

子どもたちの学びはデジタル化でも競争でもなく、共育ちにこそある。豊かな自然あふれる学校をあちこちにつくってほしい。

教職員にゆとりがなければよい教育などできない。

現状をもっとしっかり分析し、県内・県外に目を向け研究・検討してほしい。

厚木市はどんな子どもたちに育てたいのでしょうか。

学校説明会に536人が参加とのことだが、少なすぎ。住民への周知方法を検討してほしい。